

営業の概況（2020年度中間連結会計期間）【連結】

経常収益は、新型コロナウイルス感染症拡大に起因する世界経済の減速を懸念した米国金利の引下げにより、外貨建て資産を中心として貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことから、前年同期比56億7百万円（8.7%）減収の581億73百万円となりました。経常利益については、外貨調達コストの減少や営業経費の削減による増益要因もありましたが、与信費用が増加したことなどにより、前年同期比9億76百万円（7.5%）減益の119億67百万円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比4億18百万円（4.8%）減益の82億26百万円となりました。

セグメントごとの業績は下記のとおりです。

〔銀行業〕

経常収益は、前述のとおり、米国金利の引下げにより、外貨建て資産を中心として貸出金利息や有価証券利息配当金が大きく減少し、前年同期比63億19百万円（11.2%）減収の498億24百万円となりました。経常利益は、外貨調達コストの減少や営業経費の削減など増益要因もありましたが、与信費用の増加などの影響が大きく、前年同期比11億33百万円（9.2%）減益の111億11百万円となりました。

〔リース業〕

経常収益は、リース債権や割賦債権の残高増加に伴い、前年同期比4億91百万円（8.3%）増収の63億70百万円となりました。一方で、経常利益は、与信コストの増加により前年同期比9百万円（1.9%）減益の4億46百万円となりました。

〔証券業〕

経常収益は、コロナショック後の相場持ち直しによる販売額の回復を主因に、前年同期比1億77百万円（16.8%）増収の12億26百万円となりました。経常損益は、前年同期比1億85百万円改善し、経常損失55百万円となりました。

〔その他〕

経常収益は、銀行事務受託業務における受託内容の見直しなどから、前年同期比44百万円（1.5%）減収の27億40百万円となりました。経常利益は、前年同期比44百万円（4.3%）減益の9億58百万円となりました。

主要な経営指標の推移【連結】

(単位:百万円)

項目	期別	2018年度 中間連結会計期間	2019年度 中間連結会計期間	2020年度 中間連結会計期間	2018年度	2019年度
経常収益		64,758	63,780	58,173	128,621	127,318
うち信託報酬		0	0	0	1	1
経常利益		14,012	12,943	11,967	23,696	17,463
親会社株主に帰属する中間純利益		9,713	8,644	8,226	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益		—	—	—	16,199	11,916
中間包括利益		12,963	15,450	28,706	—	—
包括利益		—	—	—	5,035	△21,919
純資産額		548,619	550,615	537,849	537,818	511,193
総資産額		8,396,481	8,387,024	8,772,702	8,253,750	8,147,386
総自己資本比率 (国際統一基準)		13.33%	13.62%	13.02%	12.88%	13.04%
うち普通株式等Tier1比率		13.32%	13.61%	13.02%	12.88%	13.04%